

菅野みずえさんのお話会 与謝野町と伊根町にて
3月10日に続く日々を失わないために、原発を止めること



原発なしで暮らしたい宮津の会 吉田真理子



与謝野町 岩滝ふれあいセンターにて

10月22日(土)の午後2時から与謝野町の岩滝ふれあいセンターにて、また午後7時から伊根町の朝妻公民館にて『菅野みずえさんのお話を聴く会』を開きました。

岩滝は約45名。伊根は約30名の参加者でした。どちらの会場も託児もあって、小さい子供を連れてお母さん、若い女性の参加がありました。菅野さんは、福島県の浪江町津島区にいらしたということで、実際にあの原発事故をここと同じ30キロ圏内で体験された当事者で、その時の現場の状況、

スピーディの情報が隠され、風向きにより放射能濃度の高い地域に人々が避難し被ばくしてしまったこと、また福島県は、浜通り、中通り、会津という3つの地域で言葉とか気性も違って、避難していったときに意思疎通がうまくいかず行き違いがあったこと、車で避難した先で「あなたたちが車で高速道路を汚染させた」と言われたことなど、私たちがもし同じ立場になったらどんな気持ちになるかと思いを致すような菅野さんならではの話をされました。福島の方言を使った味のある語り口には温かさがあり、故郷を追われ、自分がそれまでに築いてきた人生のあらゆる大切なもの、幸せだった日常を突然奪われてしまったことで、どんなにつらい気持ちで暮らしているのかが、心にジーンと深く伝わってくるようなお話でした。

10月20日まで福島に帰られていたということで最近の福島の写真を見せていただきました。誰もいなくなり、帰るたびに建物が無くなって目印がなくなる菅野さんの家の近くや、津波で何もなくなった跡地に、壊した家などを燃やしている焼却場(放射性物質が濃縮されて煙になって出ている)、きれいに直されている常磐線の線路と浪江の駅(政府が2020年のオリンピックに原発事故は何てことなかったよというために)など。

一通りお話されたあとに質問は?と言われてもあまり手が上がらず、どうだったのかと思われたようですが、皆さんはお話から伝わる深い悲しみがジーンと心に沁みている、すぐに「ハイ、質問です」というような気持ではなかったのだと思います。そして菅野さんのおっしゃるように私たち京都北部の人間にとって、今の暮らしはまさに、3月10日なんだなあとという風に思えたんだと思います。

「福祉を必要とする人たちを一挙に爆発的に増やしてしまう、原発事故と戦争。福祉労働者は原発と戦争には反対をするべきです」「原発事故は賛成していた人にも反対の人にも同じように被害をもたらす。原発に反対することは偏ったイデオロギーとかではなく、ただ当たり前の日々の暮らしを守りたい、それだけを守りたいというささやかな願いです。失った暮らしは本当に愛しいものでした。失ってわかります。」と。

3月10日に続く日々を失わないために、原発を止めることこそが大事なことです。いま黙っていたら私たちは加害者になってしまう。

聴いた人の心に響き、これからの行動を促す菅野さんのお話し会でした。